

英単語の機械的学習を改善する授業内容の開発と実践

-接頭辞 dis の知識を活用した英単語の有意味学習-

M17EP002

芦沢 友也

1. はじめに—本稿の課題と方法—

(1) 英単語の機械的学習の改善

本稿は、英単語の機械的学習を改善する授業内容の開発と実践について報告する。その内容は、接頭辞disの知識を活用して単語を有意味に学習することを目的としている。その実践の成果と課題について、授業記録と事前事後質問によって報告する。

教育現場で生徒が意欲的に英単語を学習していると感じる授業は少ない。英単語学習は、ただ単に反復練習によって記憶をするだけと割り切っている生徒は多いのではないか。また教員の間にも、英単語は単に覚えれば問題ないとする考えが定着して、英単語学習を生徒任せにしている傾向があると思われる。その事例開発の遅れは、英単語の授業研究（前田・田頭・三浦2003、下地・丸山2009、赤松・藤岡2015、藤原2018）にも確認でき、現場だけの問題ではないようである。

この英単語の機械的学習の傾向をどう改善していけばいいのであろうか。岡田（2007）は生徒が英単語に対して学習意欲が高まらない現状として三点述べている。①英単語の学習自体が地道な努力を要するもので学習意欲が高いものとは考えにくい。②単語学習の仕方を教わる場面が少ない。③予備調査の結果、有効とされる学習方略を用いている学習者が少ない。本稿の事前アンケートの結果からも、英単語学習に対する生徒の重要性は低く、特に方略を用いて学習している可能性も低いと想定できる（これは、筆者自身の授業に対する生徒の評価でもある）。

では、英単語の機械的学習の傾向を改善して、英単語を有意味に学習するにはどのような

な学習方略を考えればいいのか。有意味学習（meaningful learning）とは「教師が知識を提供するとき、〔その知識を〕学習者の内部にある認知構造に関係づけるように、つまり、〔その知識に〕意味を与えるように学習させる様式」で、オーズベルは、有意味学習（meaningful learning）に機械学習（rote learning）を対置した。機械的学習による知識は「内部の認知構造と無関係に存在する知識は、機械的学習による知識であり、機械的記憶によって一時的に蓄積された知識である」（梶田1990）。有意味学習の概念は機械的学習改善の具体的指針を示してくれる。

この有意味学習を学び、自身の英語の授業が機械的学習に停滞していることを教えられた。機械的学習の枠内で授業改善を図っても、機械的学習の枠を抜け出すことはできない。この点を意識して筆者は、まずは英単語の有意味学習を生徒に保証したいと考えた。

(2) 先行研究における本稿の位置づけ

上記の英語教育の論文の中でも、本研究が最も参考にしたのが岡田（2007）である。岡田は「方略を教授されることで意欲が高まる」仮説の下、学習の前に意欲を想定する教育観を相対化した上で、授業研究に取り組んでいる（p.287）。接頭辞に着目させる授業は普通にあるという意見があるだろうが、それは“偶発的に”行っているにすぎないのではないか。意図的・体系的なdisの英単語学習の入口を岡田は提示しているので、筆者はそれを引き継ぎ、disの英単語を有意味に“体系的に”学習する授業内容の開発に取り組んだ。本稿では、disの英単語の有意味学習を保障する授業

プランを提示して、実践の成果と課題を、事前事後の結果と授業記録によって報告する。

なお本実践は定時制のA高校で行った。現在の定時制の学校は、いわゆる「困難校」と定義される説明では、十分ではない複雑さを抱えている。この授業実践を図る前、A学校ではこの研究は難しいのではないかと意見をいただいた。私もそうした生徒達に有意味学習の授業を導入し、有効な結果が得られるのか見当が付かず、半ば疑問に思っていた。

2. 事前質問の結果と考察

(1) 事前質問の内容

接頭辞disの英単語学習の本授業は、接頭辞conの英単語学習（梶原・芦沢2018）の実践（2018年10月22日）の後、公立A高校2年生8名を対象に実践した（2018年12月3日）。事前質問は両授業共通のもので（梶原・芦沢2018）、生徒1～5に（同年7月22日）、生徒6、7に（10月22日）、生徒8（12月3日）に、授業前に実施した。これは7月と10月の間にクラス替えがあったことによるもので、生徒8はクラス替え時に不在で、長期欠席であった。

事前質問はTABLE1の通りで、次の意図に基づいている。①英単語学習意欲 英単語に限定した学習意欲を把握するために3項目（1～3）を作成した。②英単語学習方略 英単語学習において、学習者が自分なりの方法を持ち合わせているかについて1項目（4）を作成した。③方略の具体的な活用 英単語学習に際して、どのような方略を活用しているのかについて2項目（5,6）を作成した。

TABLE 1 事前質問の内容

1	あなたは英単語を覚えるのは面倒だと思いますか。 ①とても面倒 ②どちらかというと面倒 ③面倒ではない
2	あなたは英単語を覚えるのは好きですか。 ①とても好き ②どちらかというと好き ③好きではない
3	あなたは自ら新しい英単語を勉強することはありますか。 ①よくある ②ときどきある ③ほとんどない
4	⑦ あなたは英単語を覚えるとき、覚えやすくするために、工

	夫していることはありますか。①ある ②ない
	④「ある」と答えた人は、どんな工夫をしていますか。
5	⑦ コンタクト (contact) という単語があります。「接触」という意味です。この単語を覚えやすくするために、工夫しますか。 ①工夫する ②工夫しない
	④「する」と答えた人は、どんな工夫をしていますか。
6	⑦ ディスハーモニー (disharmony) という単語があります。これはどのような意味だと予想しますか。 ①予想できる ②おおよそ予想できる ③予想できない
	④ ①か②を選んだ人にききます。どんな予想ですか。

(2) 事前質問の結果

この事前質問の結果を生徒別に集計したものがTABLE2とTABLE3である。TABLE3は、記述式で回答する質問4-2、5-2、6-2を整理した一覧で、回答があった質問のみを整理している（Sは生徒を指している）。

TABLE 2 事前質問の結果 (1)

	1	2	3	4-1	5-1	6-1
S1	②	③	②	②	②	②
S2	②	②	③	②	②	②
S3	②	②	③	②	②	③
S4	②	③	③	②	②	②
S5	③	②	②	②	②	③
S6	③	①	②	①	②	③
S7	③	③	③	②	①	②
S8	②	③	②	②	①	③

TABLE 3 事前質問の結果 (2)

S1	6-2: Dis は否定、harmony は音色だから。
S2	6-2: ハーモニーがたぶんハモるって言葉と同じだと思って、dis という単語がついていることで、ハーモニーの逆の意味かなと予想しました。
S4	6-2: ハーモニーは奏でるってしみだから (たしか)、それに関係すると思う。
S6	4-2: 日本語を書いた後、英語を書く。またはその逆。時々、覚えにくい所はマーカーで線を引く。
S7	5-2: コンタクトレンズ, 6-2: きれいなハーモニー
S8	5-2: ローマ字よみする

(3) 事前質問の結果の考察

質問項目4から、S6だけが英単語学習を工夫して学習していると回答している。生徒6の生徒は、英単語学習の意欲（項目1～3）に関して、意欲が高い。英単語学習を工夫して学習

していない生徒は、逆に意欲が低い傾向がある。方略の具体的な活用に関しては、質問項目4で工夫をしていないと回答した生徒でも、多くの生徒が予想し、記述していることから、具体的な問いを出題することで、回答することができると考えられる。ただ「ローマ字読みをする」、「マーカーで引く」程度の工夫であり、英単語学習を方略的に行っているとは十分に言い切れない。

3. 接頭辞disの授業内容の開発

(1) 接頭辞disの単語の分類表の作成

授業開発の手続きの第一段階として、接頭辞disの英単語の意味「反対」「否定」の単語を対象として分類作業を行った。生徒に十分な知識を保証するために接頭辞disの単語を辞典で全て調べ、一つ一つ丁寧に見る作業を行った（『アンカー英和辞典』1985年を使用）。この作業で筆者は次の点に気づいた。

①語幹が既知で日常使用している単語が複数ある（例：dis-band）。②接頭辞と語幹との関係がまったく予想できない単語が複数ある（例：dis-play）。③接頭辞と語幹の関係の予想の難易という視点から、二つの間に理解に至るまでの「隙間」の大小が存在することに気が付いた。その隙間の大小により、disの単語を五つの段階に分類した。西林も認知構造の中で、二つの事柄の間に必然性を持たせ、有意味化を図る際に、比喩的な表現として、「隙間」（西林1998 p.29）の大小が存在することを指摘している。接頭辞disの分類表がTABLE4である。

TABLE 4 接頭辞 dis の単語の分類表

①普段使っている語幹（既知）で、dis と語幹との関係を、③に比して容易に予想できる単語。
⑦【中学校で既習の語幹】：dis-band（解散する）、dis-advantage（不利）
⑧【中学校で未習の語幹】：dis-arrange（乱す）、 dis-harmony （不調和）、dis-proportion（不均衡）、dis-joint（関節を外す）
②普段使っていない語幹（未知）で、dis と語幹との関係を、④に比して容易に

予想できる単語。
⑦【中学校で既習の語幹】： dis-like （嫌う）、dis-agree（口致しない）、dis-allow（否認する）、dis-appear（見えなくなる）、dis-approve（賛成しない）、dis-arm（軍備を縮小する）、dis-believe（信じない）、dis-comfort（不快）、dis-connect（（関係）を断ち切る）、dis-content（不満）dis-continue（中止する）、dishonest（不正直な）、dis-honor（不名誉）、dis-order（混乱）、dis-respect（無礼）、dis-similar（異なる）、dis-taste（嫌い）、dis-trust（不信）、dis-use（使口をやめる）
⑧【中学校で未習の語幹】：dis-ability（無能口）、dis-burden（積荷を降ろす）、dis-credit（不信）dis-engage（解く・取り消す）、dis-grace（不名誉）、dis-integrate（分解する）、dis-inter（（墓等から）掘り出す）、dis-loyal（不忠な）、dis-mount（降りる）、dis-obey（従わない）、dis-orient（口 向感覚を混乱させる）、dis-parity（不等）
③普段使っている語幹（既知）で、dis と語幹との関係を、①に比して容易に予想できない単語。
⑦【中学校で既習の語幹】：dis-charge（荷を降ろす・放電する）dis-color（変口する）、dis-cord（不口致）、dis-count（割引）、 dis-cover （発口する）、dis-service（ひどい仕打ち）
⑧【中学校で未習の語幹】：dis-figure（形を傷つける）
④普段使っていない語幹（未知）で、dis と語幹との関係を、②に比して容易に予想できない単語。
⑦【中学校で既習の語幹】： dis-close （あらわにする）、dis-interested（私心のない・公平な）dis-own（口分のものでないと口う・否認する）
⑧【中学校で未習の語幹】：dis-affect（離反させる）、dis-claim（否認する・拒否する）、dis-close（あらわにする・（秘密など）を打ち明ける）、dis-courage（落胆させる）、dis-ease（病気）、dis-gust（むかむかさせる）、dis-illusion（迷いからさめさせる）、dis-incline（する気にならない）、dis-infect（消毒〔殺菌〕する）、dis-inherit（相続権を奪う）、dis-regard（無視する）
⑥語幹が既知・未知いずれでも、dis と語幹との関係の予想が困難な単語。
⑦【中学校で既習の語幹】： dis-play （展示する）、dis-member（分割する）
⑧【中学校で未習の語幹】：dis-appoint（失望させる）、dis-guise（変装）

(2) 授業内容とその意図

授業内容は次の意図に基づいて開発した。

①授業プランを作る想定の下、五つのグループの中より、各単語の意味を予想するどのような手がかり（既知）を教師と生徒が持っているのかを書き出す作業を行った。既知を手がかりとして単語の意味を獲得できるかが有意義学習と機械的学習の分岐点となるので、この作業をしなければ、接頭辞disの単語の有意義学習の授業内容は構想できない。②選出された単語それぞれについて、教師と

生徒とのやりとりが成立する発問を作成した。既知を活用して、未知を獲得する発問は、偶発的ではなく、意図的なものとして信頼性を保障する必要がある。③ある発問が次の発問を考えるための基礎となる“段階的思考”を可能にするため、選出された単語の発問系列を整理した。そしてそれらを授業プラン全体の発問系列として機能しているか改めて検討した。④有意味学習が成立するかどうかを評価する事前事後質問を構成した。

4. 接頭辞disの教授学習過程

(1) 授業記録

授業記録（2018年12月3日）の一部を抜粋し、TABLE5としてまとめた。

TABLE 5 授業記録

英単語	授業記録
dis	T: 【発問 dis で思いつくものは? S4: <u>ディする。悪い意味。罵倒する。</u> (既知・予想) T: 【発問】 ディするって良い意味?それとも悪い意味? S1: 悪い意味 (予想)
dis-like	T: 【発問】 この like はどんな意味ですか? S6: 好き (既知) S1: わかった。 <u>好きではない</u> (予想: 既知の活用) T: 【発問】 (辞書で dis=反対、否定を確認した後) dislike はどんな意味になると思う? S3: <u>好きではない</u> (予想: 知識の活用)
dis-harmony	T: 【発問】 ハーモニーってどんな意味ですか? S4: 調和 (既知)。 T: 【発問】 調和という意味にこの dis が加わるとどんな意味になると思いますか? S1: <u>不調和</u> (予想: 「dis=否定」の知識の活用)。
Dis-cover	T: 【発問】 cover の日本語は何でしょうか? S6: つつみ、つつみもの、まもるもの (既知) T: 【発問】 この cover に dis をつけたらどのような意味になるでしょうか? S6: <u>探す</u> 。 S3: <u>はずす</u> 。 S2: <u>素の状態</u> (予想: 「dis=否定・反対」の活用) T: 【発問】 その意味と「発見する」という意味はつながっていますか? S4: <u>つながっている。カバーが覆ってあって、かくしてある。それが見える状態になるから発見する</u> (隙間を埋める思考)。 S6: <u>見えないものが見えるようになった</u> (隙間を埋める思考) T: (机の上にハンカチを被せたものがある) ここにハンカチがあります。このカバーを取りはずすとどうなるでしょう? (ハンカチを取る) 筆箱が? S1: でてくる、発見する。
Dis-close	T: 【発問】 close どのような意味ですか? S4: しまる。しめる (既知) T: 【発問】 この close に dis を付けるとどのような

	意味になりますか? S2: <u>開けられる。閉まっているものを開けることができる</u> (予想: 「dis=否定・反対」の活用)。 T: 【発問】 この閉まっているものを開けると、あらわになると打ち明けるは、つながりがあると思いますか? S4: <u>中に何かあって、その中のものがあらわになる。打ち明けるだから、見えなかったもの見えるようになる。</u> (隙間を埋める思考) S2: <u>話すとかは、隠してあった自分の気持ちを打ち明けるから。</u> (隙間を埋める思考) S5: <u>壁があって、そしてその奥のものが見えるようになる。</u> (隙間を埋める思考)
dis-play	S1: ブルーレイとかで、ディスプレイって言わない? (既知) S2: モニター (既知) T: 【発問】 play はスポーツの時などに使うね。では、その意味の play に dis を付けるとどんな意味になるでしょうか? S4: <u>しない。スポーツではないことをする。</u> (予想 「dis=否定・反対」の活用) T: 【発問】 play を (古代ラテン語に由来する) 折るという意味でとらえた場合、display はどのような意味になるでしょうか? S1: <u>一直線にする</u> (予想)。 S4: <u>折らない</u> (予想)。 T: 【発問】 折ったものを広げたらどうなりますか? S4: <u>開示する。</u> (予想) S1: <u>見えるようになる、中が見えるようになる。</u> (予想) T: 【発問】 (机の上の折った紙を取る) この折ってある紙を広げたら (ピカチューの絵が見える)? S4: 見える。 S1: ピカチューが見えるようになる。 T: 【発問】 では表に出すという意味と展示するはつながっているでしょうか? S8: <u>つながっている。かくすのではなく、見せているから</u> (隙間を埋める思考) S2: <u>見えないものが見えるようになるから</u> (隙間を埋める思考)

(2) 授業記録の考察

TABLE5の授業記録に基づいて、それぞれの単語について考察を行う。

- ①disでは「ディする」は生徒の日常的な知識で、「悪い意味」の知識を共有していた。
- ②disとlikeの「隙間」は大きくないことが、「好きでない」と容易に正答したことからわかる。
- ③disとharmonyの「隙間」が大きいことが、容易に正答していることからわかる。
- ④disとcover (包む) の生徒の予想は「はずす」(S3)であった。辞書で意味を確認後、「発見する」と「はずす」との「隙間」がつながっているかを問うたところ、S4は「隙間」を埋める思考をした。教師が看過しがちな「隙間」を発問にすることで、その思考が生まれている。
- ⑤discloseではS2の予想が出た後、訳語を辞書で確認して、予想と訳語(あらわになる)との隙間を問い、S2は隙間を埋める思考をした。

⑥displayの予想がS4から出た後、playはラテン語の「折る」に由来すると伝え、displayがどのような意味になるかを再度尋ねると、「折らない」(S4)と予想した。「折らない」とdisplayの訳語「展示する」と大きな隙間を問い、S2・8は隙間を埋める思考をしている。

5. 事後質問の結果と考察

(1) 事後質問の内容

以上のように本授業では、「ディスる」の経験的知識を手がかりに、dis(反対・否定)の教科の知識の意味を予想・獲得した後、disと語幹の関係に着目して有意味学習を進めた。その教科の知識を未知の単語に適用して、意味の予想をどの程度の生徒ができるようになったのか。この点を事後質問で検証する。事後質問の内容はTABLE6である。

TABLE 6 事後質問の内容

1	以下五つの単語に関する問題に、①から順番に答えて下さい。各問題⑦⑧も、順番に回答して下さい。⑦に行ったら⑧には戻らないで下さい。
①	⑦dis-band(ディスバンド): band(バンド)という言葉、「5人組の音楽バンド」のように、私たちは普段使っています。dis-bandはどんな意味だと思いますか。 ⑧dis-bandの訳語は次のどちらだと思いますか。①(バンドを)続ける ②(バンドを)解散する ③(バンドに)メンバーが加わる ⑨上の答を選んだ理由を、書いてください。
②	⑦dis-continue(ディスコンテニュー): continue(コンティニュー)という言葉は「続く」という意味。dis-continueはどんな意味だと思いますか。 ⑧上のように答えた理由を、書いてください。
③	⑦dis-count(ディスカウント): count(カウント)という言葉は、「数える」という意味です。dis-countは、どんな意味だと思いますか。 ⑧disには「反対」という意味もあります。dis-countという言葉は次のどちらの【数え方】を意味すると思いますか。①「1→2→3→4…→10」という数え方②「10→9→8→7…→1」という数え方 ⑨dis-count(ディスカウント)という言葉は、「割引商品」という意味で、私たちは普段使っています。⑧の回答と、「割引」という意味はつながっていますか。①つながっている ②つながっていない ⑩上のように答えた理由を、書いてください。
④	⑦dis-ease(ディスイーズ): ease(イーズ)は、「楽」という意味です。dis-easeは、どんな意味だと思いますか。 ⑧dis-easeは、次の図のどの意味に近いと思いますか。それぞれの図をよく見て、いづれかに○をつけてください。
	  
	①好調 ②普通 ③病気

	⑦上のように答えた理由を、書いてください。
	⑦dis-member(ディスメンバー): memberは「一員、メンバー」の意味です。dis-memberはどんな意味だと思いますか。
⑤	⑧dis-memberの訳語は、次のどれだと思いますか。考えてから、番号を選びなさい。①バラバラにする ②結束が強くなる③新たな一員が加わる ⑨上のように答えた理由を、書いてください。
2	今日は「ディスライク」「ディスカバー」のように、【disと、後ろの言葉(like, cover)との組み合わせ】を意識して、英単語を勉強しました。その意識によって、英単語は、覚えやすくなりましたか。①覚えやすくなった ②少し覚えやすくなった ③覚えやすくなかった
3	今日は「dis=〜でない」という【きまり】を、disがつくいろいろな単語にあてはめて、英単語を勉強しました。【きまり】によって、英単語は、覚えやすくなりましたか。 ①覚えやすくなった ②少し覚えやすくなった ③覚えやすくなかった
4	今日のように英単語を学習すると、英単語を覚えることは楽しくなれそうですか ①楽しくなれそう ②少し楽しくなれそう③楽しくなれそうにない
5	今日の授業の感想を、できるだけ詳しく書いて下さい。これまでの英単語の授業に比べて、今日の英単語の授業はどうでしたか。

(2) 事後質問の結果—質問1の五問—

事後質問(1)の結果(8名)を、質問1①～⑤毎に纏めたものがTABLE7、TABLE8である。TABLE7は質問①～⑤の⑦、⑧の①を纏めたもので、生徒がdis(否定・反対)の意味を活用して、おおまかな予想が出来ていると判断した生徒を「活用者」と判断した。他方TABLE8は質問①③④⑤の①⑦を纏めたもので、⑦の大まかな意味予想を訳語レベルで問い直したものである。解答が①⑦両方で適切な生徒を「正解者」として集計した。なお質問2は訳語を選択肢として与えた質問ではないので、TABLE8に質問2はない。TABLE8の表上端は生徒番号である。生徒5は選択問題に関しては未記入、記述の問題に対しては全て「しらん」と回答していた。

TABLE 7 事後質問の結果(1)

質問	活用者	記述内容
①⑦	7人	・解散する(S1,S6)・バンドでなくなる(S2) ・1人で行く(S3,S4,S7)・disは演奏をしない(S8)
②⑦	7人	・終わる(S1,3,6,7,8)、中止する(S2)、やめる(S4)
②①	7人	・ゲームでコンティニューとつかうときやりなおせるといふみだから(S1)・続くものにbis(dis)が付いたらとぎれるから(S2)・disが否定だから(S3,S6)・反対にしたら続かないになって、ゲームとかで考えたら続かないっていうのはやめるってかんじだから(S4)・続きの反

		対だから (S7)・続きには終わりがある (S8)
③㉗	7人	・数えない (S2,S6,S7,S8)、数えられない (S1)、数えるのをやめる (S3)、反対に数えていくやつ (S4)
④㉗	7人	・苦しい (S1,S2,S4,S8)、困難 (S3)、難しい (S6)、きつい (S7)
⑤ア	7人	・メンバーではない (S7,S8)、メンバー以外 (S1)、だったという (S2)、はぐれる (S3)、一人 (S4,S6)

このように全て生徒が接頭辞disの五つの未知の英単語に対して、語幹の意味の反対・否定を表わす意味を大まかに回答できている。

TABLE 8 事後質問の結果 (2)

	1	2	3	4	5	6	7	8
①㉗	②	②	②	②	NA	②	③	②
①㉗	5人 (正解者 S1,S2,S3,S4,S8)		・1人で行う (S4,S7)・バンドは複数の集まりで、その逆だから (S1)・組んでいるものに bis (dis) が付いたので、解散だと思いました (S2) ・dis がある (S3)・勘です (S6)・解散 (S8)					
③㉗	②	②	②	②	NA	②	②	②
③㉗	①	①	①	①	NA	①	①	①
③②	7人 (正解者 S1,S2,S3,S4,S6,S7,S8)		・反対の意味なので数が減る (S1,3,4,6,7,8)。 ・100パーセントが元のねだんで、そこから割り引かれるということは、100,90,80のようにつながっていると思いました(S2)					
④㉗	③	③	③	③	NA	③	③	③
④㉗	7名 (正解者 S1,2,3,4,6,7,8)		・楽は好調だからその逆と思った (S1,2,3,6) ・楽の反対は苦しいと思った (S4,S8) ・楽の反対はきついだから (S7)					
⑤㉗	①	①	①	①	NA	①	①	①
⑤㉗	6人 (正解者 S1,S2,S3,S4,S6,S7)		・メンバーは一つの集まりと思うからバラバラになる (S1,S2,S6)・メンバーの反対 (S3)。 ・メンバーは1人じゃあメンバーていわない (S4)・メンバーの反対はバラバラ (S7)。 ・よくわからなかったからそれらしいものに丸をつけた (S8)					

この正答者を「正答率」として纏めたものがTABLE9である (表左端：生徒番号)。

TABLE9 質問1の生徒毎の正答率

	質問①	②	③	④	⑤	正答率
1	○	/	○	○	○	100%
2	○	/	○	○	○	100%
3	○	/	○	○	○	100%
4	○	/	○	○	○	100%
5	×	/	×	×	×	0%
6	×	/	○	○	○	75%

7	×	/	○	○	○	75%
8	○	/	○	○	×	75%

半数の生徒 (S1・2・3・4) が正答率100%であった。また3人の生徒S6・7・8) は一問が不正解であったが、不正解の内の片方の問題は正答していた。高い正答率の背景には、接頭辞disを正しく活用することで、未知の単語に対しても、転移を可能にしている。

(3) 事後質問の結果—質問2～質問5—

次に質問2～5の結果を見てみよう。質問2～4を生徒毎に集計したものがTABLE10、質問5を纏めたものがTABLE11である。

TABLE10 質問2～4の生徒毎の結果

	1	2	3	4	5	6	7	8
質問2	②	①	②	①	③	①	②	②
質問3	①	①	②	①	③	①	②	②
質問4	②	②	②	①	③	①	②	②

TABLE11では生徒5を除いて、全ての生徒が肯定的な回答をしている。

TABLE11 質問5の生徒毎の結果

1	普通の授業よりもよく考えながら単語を覚えられるので普通よりも長くおぼえられるし、きまりをおぼえていけば難しい単語も理解しやすい。
2	授業授業しているのは、(自分たちの高校)らしくなく、あまり好きではないが、今回の授業では、発言させ、考えさせ、わかりやすい (内容が) 授業でよかったと思います。
3	意識しやすかった。ディスプレイを覚えた
4	身近にもつかえるようなかんじでおぼえやすかった。自分はスーパーではたらいっているから割引とかよくみてるし、そういうところはとてもわかりやすく覚えやすいと思った。
5	前のがよきだった。以上。
6	楽しかったでちゅ♡きまりがあると覚えるのに苦労しないから楽でよきです
7	display はすごかった。play で折る。display では折らない。
8	自分たちで考えて、その後には調べるよーって思うことが多くてたのしかったです。くそくせいがあることで少しはおぼえやすそう。

TABLE11では (1) dis (否定・反対) の知識の活用の意義について、感想を述べている生徒が複数いた。S1・6・8は、規則性と記憶

の関連性について述べている。(2) 思考の意識について、S1・7・8は、自ら考えたと述べている。S7は、通常このような授業を受けたことがなかった新鮮な驚きを感じる。(3) 本授業の英単語の学習方法のわかりやすさ・おぼえやすさについて、S3・4が「意識しやすい」、「わかりやすく」と述べている。

(4) 事後質問の考察—質問1と2・3の関係—

具体的な英単語の知識の理解・活用を問うた質問1の結果 (TABLE9) と、質問2、3の結果 (TABLE10) とをまず照合させてみよう。このことから次の点を指摘できる。

- ⑦質問1の正答率100%の【4名】(S1,2,3,4)は、質問2・3では選択肢①(覚えやすくなった)か選択肢②(少し覚えやすくなった)を選択した。接頭辞を活用する単語学習の効果が示されている。
- ④質問1の正答率75%の【3名】(S6,7,8)も、質問2・3で②を選択した。これは、接頭辞を意図的に活用する単語学習が一定程度有効であったことを示している。

(5) 事後質問の考察—質問1と4との関係—

次に具体的な英単語の知識の理解・活用を問うた質問1の結果 (TABLE9) と、英単語学習の意欲を尋ねた質問4の結果 (TABLE10) とを照合させてみよう。

- ・⑦の【4名】は質問4で選択肢①か②を選択した。
- ・④の【3名】は質問4で①か②を選択した。
- ・質問1の正答率0%のS5は質問4で③を選択した。

この結果によれば接頭辞の知識理解・活用の高低(質問1)は単語学習の意欲の高低(質問5)に反映されている。すなわち知識が理解・活用できるに応じて意欲が形成されやすい。

(6) 事前事後質問の考察—事前質問1~3と事後質問4との関係—

次に事後質問4の結果を、同じ単語学習の意欲を尋ねた事前質問1・2・3の結果と照合させてみよう。これから次の点を指摘できる。

- (A)の【4名】中1名(S4)は事前質問1・2・3全てで、単語学習に意欲が低い選択肢(質問1:①か②、質問2:③、質問3:③)を選んだ。【4名】中3名(S1,2,3)は事前質問1・2・3の二問で、単語学習に意欲が低い選択肢を選んだ。以上4名において、事後に単語学習への意欲が認められる。
- (B)の【3名】(S6,7,8)は、事前質問1・2・3中二問で、単語学習に意欲が低い選択肢を選んだ。事後質問4では、②(少し楽しくなれそう)を選んだ。以上2名において、事後に単語学習への意欲が認められる。
- (C)の【1名】(S5)は、事前質問1・2・3中全てで、単語学習に対して積極的である選択肢を選んでいた。しかし事後質問4では③(楽しくなれそうにない)を選択した。

以上のように英単語に対する意欲形成が6名(S1・2,・3,・4,・7,・8)については事後に、1名(S6)については事前同様に事後にも認められた。他方S5の1名については、質問1の結果と併せて、意欲形成についても本授業は援助できなかった。授業への参加を促すにはどうすべきかを検討する必要がある。

6. 本稿の総括と課題

以上本稿は、英単語の機械的学習を改善する授業内容の開発と実践について報告してきた。授業記録では、(1)生徒が「ディスる」等の日常的な経験的知識を活用して「dis=否定」という教科の知識を獲得する過程、(2)「dis=否定」の知識を活用してdisの単語の意味を予想して獲得する過程を報告した。その過程は、生徒が単語の綴りと意味をワンセットで暗記する機械的学習ではなく、既知に関連づけて単語の未知の意味を獲得する有意味学習であった。この学習をどの程度の生徒が

どの程度行うことができたのか、この点については事後質問を通して報告してきた。

今後の課題を以下の三点挙げておきたい。

(1) 今回の授業が単発的なものにせず、年間を通してより多くの有意味学習の機会を提供したい。(2) 授業後も、英単語学習の意欲が継続しているのか、方略を使用しているのかについて研究を進めたい。(3) 意欲が高まらなかった生徒に、方略を含めて検討をしたい。最後に、本年度の内容の開発と実践を通して筆者が学んだことを整理しておきたい。

①授業内容を開発する難しさ：生徒に思考を保障するには、授業内容の開発がまず必要であると実感した。今回指導教官から、緻密に発問を組み立て、実践し、検証する過程を指導していただき、自分の過信を実感した。筆者自身こそ、そうした知識理解を新たに行おうとせず、楽な機械的学習に慣れていた側面があったのだろう。今回の一連の研究を通して教師が有意味なかたちで教科の知識を学び直すことが、授業研究の要件であると学んだ。

②本質的な発問の開発：授業を実践した際に、生徒が今までの授業では決して見せたことがないほど、考えている様子を随所に感じた。教師は生徒の既知を知ろうとし、それを活用できる本質的な問いを準備出来るかが、思考を生み出す鍵になる。

③「できない」子という教育観：筆者は授業プランを開発している段階では、いわゆる困難校での実践は厳しいと半分思っていた。これは広く見られる教育観と思われ、筆者が授業実践を図る前に先生方より、この学校でこの内容は厳しいのではないかとご指摘を頂いた。本実践の生徒の思考を見れば、困難校の生徒達も、教師が考えるより可能性に満ちているのではないか。そうした可能性の芽を摘む教育観についても考えさせられた。

④有意味学習と機械的学習：高校の現場では大学受験もあり、学習が機械的にならざるを得ない場面が生ずることは理解できる。ただ授業内容を有意味学習に改善できる可能性を考えずに、機械的学習を肯定しては、教師の授業力は向上しないだろう。

⑤接頭辞ex・inの有意味学習の開発：今回の一連の緻密な準備を通して、確かな結果が伴う実践は生半可では成立しないと痛感した。今後、ex・inなど他の接頭辞の有意味学習の内容開発を進めたい。

<引用文献>

- ・赤松大輔・藤岡秀樹（2015）「英語科に関する学習観と英単語学習方略との関連」『京都教育大学実践研究紀要（15）』、pp.153-162.
- ・藤原隆史（2018）「Powerpointスライドを用いた英単語指導用モジュール教材の提案と高等学校での実践例」『地域総合研究（19）』、pp.207-212.
- ・開隆堂のHP掲載のファイル「中学校で学ぶ英単語（EXCEL）」中の「H28中英六社単語」（閲覧日：2018年9月13日）.
- ・梶田正巳（1990）「意味受容学習」細谷俊夫他編『新教育学大辞典〇』第一法規、pp.136-138.
- ・梶原郁郎・芦沢友也（2018）「英単語の機械的学習を改善する教育実習指導－既有知識を意図的に活用する有意味学習の経験を保障する－」『山梨大学教育学部紀要29』 pp111-125.
- ・前田啓朗・田頭 憲二・三浦 宏昭（2003）「高校生英語学習者の語彙学習方略使用と学習成果」『教育心理学研究（51）』 pp.273-280.
- ・西林克彦（1994）『間違いだらけの学習論－なぜ勉強が身につかないか－』新曜社.
- ・岡田いずみ（2007）「学習方略の教授と学習意欲－高校生を対象とした英単語学習において－」『教育心理学研究（55）』 pp.287-299.
- ・柴田徹士編（1985）『アンカー英和辞典（第2版）』学習研究社.
- ・下地貴樹・丸山広人(2009)「英単語教育における高校生の学習方略の導入に関する研究」『茨城大学教育実践研究（28）』 pp.153-165
- ・鈴木健二・すずきひろし(2018)『英単語の語源図鑑』かんき出版.
- ・宇野忍（2002）「学習と記憶について」宇野忍編『授業に学び授業を創る教育心理学（第2班）』中央法規 pp.116-120.